

宮古におけるモズク養殖業の概要

宮古地区普及室 仲 間 勲

下 地 聡

宮古地区は、県下でも、有数の天然モズクの生産地であるが、その生産量は、年変動が激しく、養殖の必要が痛感されていた。

モズク養殖試験は、昭和52年から始められたが、昭和53年から昭和54年にかけて、2年連続して成功した。なかでも、1網（1.5 m×20 m）平均70 kg、最高168 kg（1回収穫）の収量を示したときは、大きく注目された程である。そういうこともあって、漁業者の間でも次第に養殖が盛んに行なわれるようになり、昭和55年には、150トンの生産量を揚げるまでになった。

1. 昭和55年度の生産量は、養殖150、19.2 kg、天然産、32、711 kg。
2. 各地区におけるグループ数及び人員と養殖網数は下表のとおりである。

地 区	開始当時のグループ人員及び網数			収穫まで残ったグループと人員及び網数		
	グループ数	人 員	網 数	グループ数	人 員	網 数
平 良 市	24	81	4,215	17	55	1,775
伊 良 部 村	10	27	2,310	7	20	770
下 地 町	1	4	70	1	4	60
城 辺 町	1	20	80	1	20	40
多 良 間 村	1	4	25	1	4	25
5	37	136	6,700	27	103	2,605

※平良市一仲原盛作外18グループ（79人）

多良間村と城辺町は平良市に入れた。

※伊良部村一長間 浩外6グループ（20人）

※下地町一大浦 徹グループ

3. 宮古島においても、モズク養殖グループによって、「モズク種苗の越夏保存方法」が試みられ、その多くが成功した。その中でも、2グループは、種モズク用約2トンを生産し、宮古島全域に供給され、約7,000枚の網が養殖中である。その状況は下記表のとおりである。

地 名	沖 出 し	収 穫 状 況
狩 俣	昭和55年10月11日	12月5日母藻として150 kg搬出。
大 浦 湾	昭和55年10月14日	12月18日～1月まで母藻として1,850 kg販売。

- (1) 宮古において、12月5日から母藻の早期供給が実現出来た。
- (2) 種付けを早めることにより、11月下旬頃には、十分に母藻供給が可能となってきたことを示

す。すなわち、沖縄本島から、母藻を輸送しなくてすみ、逆に両湾の水温の推移をみると、沖縄本島へ母藻を送り出すことも可能となった。